

*** 今日 の 健康 (1月) ***

< アレルギー の 分類 >

アレルギーの概念は、免疫学的に感作された生体が、再び抗原と接触したときに生体にとって不利になるような反応のことであり、免疫応答が生体を障害するようなものである。簡単に言うと、たとえば花粉(抗原)を吸い込んだとする。1回目は少し症状があるかないかだが、このときに生体内では吸い込んだ花粉に対する対応策を練っている(=感作された)。2回目以降に吸い込んだとき、前回の教訓から花粉を攻撃し、体内から排除しようとする(=免疫応答)。この排除しようとする生体反応が、自らにも過剰な鼻汁等で(生体に)障害をもたらしてしまうこと。アレルギー反応には、異物排除機構として、好中球、マクロファージ、免疫系として T cell B cell 等のリンパ球、インターロイキン、サイトカイン、Bclから作られる免疫グロブリン等々様々な物質が関与しています。



< アレルギー の 分類 >

型アレルギー (アナフラキシー型) 感作された生体に抗原が入り込むと、肥満細胞や好塩基球の表面のIgEに抗原が結合することによりヒスタミンの遊離等、物質の放出反応が起きます。

例：アナフィラキシー(蜂刺症等)、気管支喘息(ハウスダスト、ダニ等)、アレルギー性鼻炎(花粉症等)、蕁麻疹・食物アレルギー(卵、ミルク、ピーナッツ、蕎麦、穀物等)、アトピー性皮膚炎などがあります。

型アレルギー (細胞障害型) 細胞膜に対する抗体、あるいは細胞表面に付着した外来性抗原に対する抗体と補体が作用して、溶血などの細胞の障害がおきること。

例：血液型不適合輸血、Rh因子不適合輸血、自己免疫性溶血性貧血等により、赤血球が破壊されて血液が溶ける病態。血小板減少症・血小板が減少する病態で紫斑病などがあります。

型アレルギー (免疫複合体型) 血清中で抗原と抗体の反応が、免疫システム上複雑に絡み合っ(詳細略)て、人体の組織や血管に障害が起きます。

例：血清病、急性糸球体腎炎、アレルギー性肺炎、アレルギー性血管炎、膠原病(SLE、関節リウマチ)などがあります。

型アレルギー (遅延型) Tcellやマクロファージが関与し、細胞性免疫による反応。

例：結核検査のツベルクリン反応、接触性皮膚炎、臓器移植免疫、腫瘍免疫などがあります。

型アレルギー (抗レセプター型) ホルモン分泌の受容体に対する抗体を作る反応。

例：甲状腺機能亢進症・低下症などを引き起こします。

治療としては、原因アレルギーの回避、免疫療法(減感作療法)：アレルギー性鼻炎、喘息

抗アレルギー薬：肥満細胞から遊離される物質を抑える、抗ヒスタミン剤：ヒスタミンの遊離を抑えることにより症状の軽減を図る。副腎皮質ステロイド：強力な抗炎症、抗アレルギー作用を持ち、重積する喘息発作、重症な皮膚アレルギーなど生命に危険のあるアレルギー性疾患、自己免疫疾患、膠原病などに用いる。副反応については下記しますが、喘息の吸入剤はほとんど体内には吸収されないため、心配は要りません。皮膚に塗布する外用剤は注意が必要です。交感神経刺激薬および抗コリン剤：気管支攣縮、気管支分泌亢進等の抑制。キサンチン誘導体、免疫抑制剤

主な副腎皮質ステロイドの副作用は全身に及びます。

糖質代謝異常：血糖の上昇、ステロイド糖尿病

蛋白代謝異常：成長抑制、筋力低下

脂質代謝異常：肥満、円形顔貌、高コレステロール血症

電解質以上：血圧上昇、循環血漿量増加

男性ホルモン作用：多毛、月経変調

血液凝固異常：血栓形成

消化器系：消化性潰瘍

中枢神経系：不眠、多幸感

下垂体抑制：副腎皮質機能低下

眼：白内障

免疫抑制：感染症の像悪と誘発(結核など) 皮膚：色素沈着

骨：骨粗しょう症

前澤クリニック 内科 小児科 0422-30-2861

天文台通り多摩信用金庫のななめ裏